



大地申  
第16号

## 「電気部門の変革2022について」 に関する申しれを提出する！ その2

### 申し入れ項目

#### 【技術センターにおける業務の簡素化】

1. 電気部門における工事設計の積算について、人工積算の適用を拡大して負担を軽減する仕組みを構築すること。特に建物附帯工事に多く活用する小規模外注工事について適用できる仕組みを構築すること。
2. 大宮電力技術センターの電路設計Ⅰ科・電路設計Ⅱ科・変電設計における今年度4月～2月分の33発動を除く総超勤時間をグループごとに示すこと。なお、工事業務の簡素化（積算・契約）については増大している時間外労働の抑制程度の効果と考えるので、大宮電力技術センターの標準数削減及び現行要員の削減は行わないこと。

#### 【異常時対応・人材育成について】

1. 施策実施後の新幹線と在来線の大規模輸送障害における相互協力について、在来では建築限界外、新幹線では柵外からの後方支援体制とすること。
2. 現在の大宮運転区構内の架線設備について、様々な教育訓練で使用していることから継続して架線設備及びレール設備を残すこと。
3. 7年育成プランについて、習熟度のトレースは管理者だけでなく個人をよく把握している先輩社員の意見も反映しながら行うこと。

#### 【現存する課題の解消に向けて】

1. 在来の変電グループについて、業務に必要な要員を引き続き確保していくこと。また、変電所の直接運転について件数が多くなっていることや足ロスもあり、所内業務に負担が掛かっていることから安全を軸に早急な対策を講じること。
2. さいたま車両センター及び小山車両センターについて、重要な車両基地であることから電力の支持物取り替えを計画的に進めること。また、小山車両センターの電子連動装置の更新に向けて早急に取り組むこと。
3. パートナー会社の駅構内立ち入り票提出による作業の際、施工後に駅社員の確認が不要な場合は、施工終了後速やかに帰路できる仕組みを構築すること。
4. 工事に際して保安打合せに関わる資料作成や施工時等、パートナー会社の負担を軽減するための対策を進めていくこと。また、各主管依頼の工事は関係主管から現場へ工事内容を周知徹底し、パートナー会社が施工しやすい環境を構築すること。
5. 線路閉鎖受付支援システムにおける列車間合いの変更に際して、システムでの変更が可能であることから、駅側が間合い変更を行えるように改善すること。また、駅側のローカルルールで、線路閉鎖受付簿作成に負担が掛かることから改善すること。
6. 大宮信号通信技術センターの駅ATOSPJについて、恒常的な業務体制となっていることから駅ATOSC科とし、必要な業務体制を確保すること。
7. 信号通信において不要埋設ケーブルが残存し、他系統工事での支障が多くなっていることから、今後のメンテナンス環境を見据えて、埋設ケーブルの撤去予算を確保して解消を図ること。
8. 埼京線のATACS導入における運用について、早急にレール破断検知器を設置すること。
9. 設備管理システムにおける精度向上について、諸元修正を効率的に進められる環境を整えていくこと。
10. 全ての業務用自動車にドライブレコーダーを装備すること。また必要によりETCを装備させること。
11. 今後の設備関係職場における女性設備新設・改善等の計画を具体的に示すこと。

**安全で働きがいのある施策の実施に向け、  
労使議論を深め課題の克服を目指そう！**